

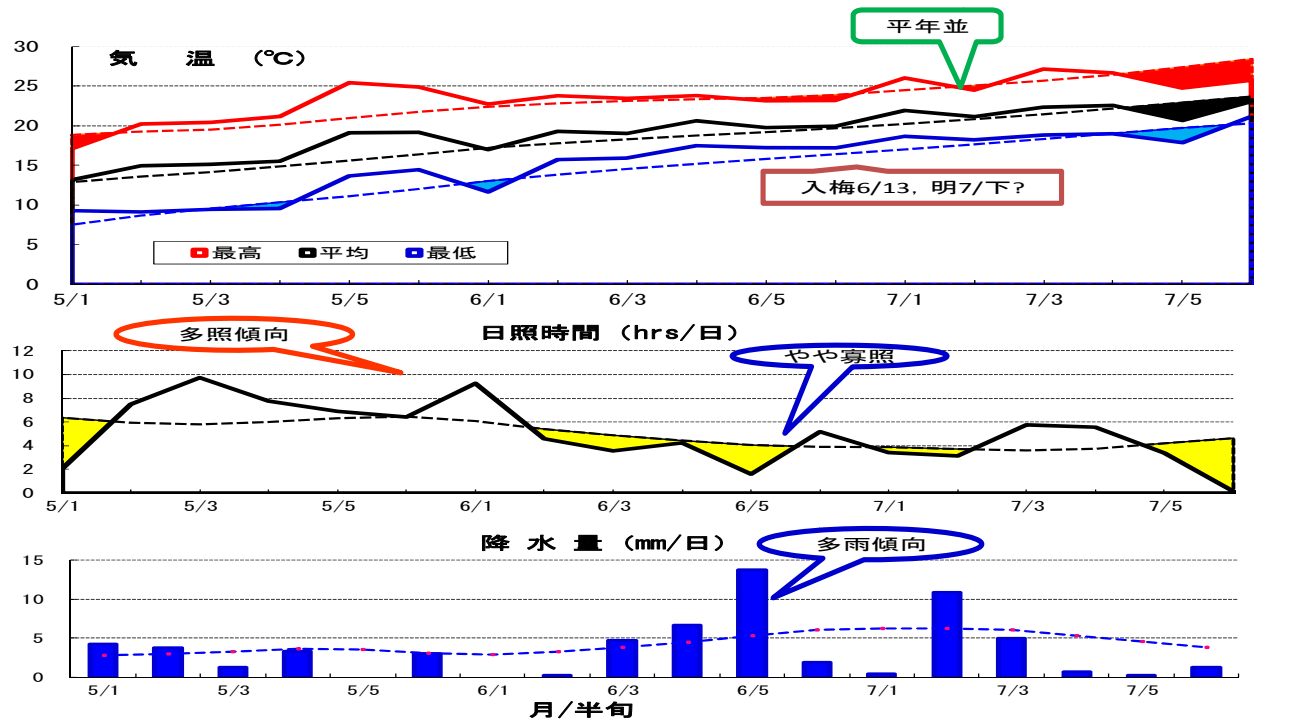
大豆作情報第2号

平成 28 年 7 月 29 日

JA全農みやぎ

～～概ね順調でやや茎長は長め・開花始め、病害虫防除の徹底を～～

1 気象経過



注) 日照時間、降水量は1日当りの平均値で示した(実数値は10, 12, 1月6半旬6倍, 11, 4月6半旬は5倍、2月6半旬は3倍した数値)

- ・7月上旬～中旬までの気温は、ほぼ平年並み～やや高く、下旬は低めに経過した。
- ・6月がやや寡照気味で、7月上旬は、並～やや多照傾向、下旬は寡照であった。
- ・降水量は、6月入梅以降は断続的に降雨があり、やや多雨で、7月は中旬以降少雨であった。
- ・7月5半旬までの日平均気温は、21.5(平年差-0.3℃)、日照時間がやや多照(平年比113%)で、降水量は84mm(平年比65%)あった。

2 生育状況

[7月25日の生育状況]

播種期	品種名		開花期 (月/日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	総節数 (節/本)	茎径 (mm)
(5/24)	標播	本年値	7/25	63.1	14.1	3.7	30.9	9.3
		前年差	1日遅	+5.2	+0.3	+1.2	+4.1	+0.2
		平年差	1日早	-1.3	-0.2	+1.0	+1.9	+0.4
	あやこがね	本年値	7/26	66.1	14.5	3.1	30.7	9.5
		前年差	1日遅	+4.7	+0.4	+0.7	+3.1	-0.3
		平年差	同日	+3.7	+0.3	+0.5	+2.2	+0.4
	タチナガハ	本年値	7/26	61.5	13.5	3.6	28.9	9.0
		前年差	同日	+14.5	+0.5	+1.7	+6.0	+1.8
		平年差	—	—	—	—	—	—
	ミヤギシロメ	本年値	—	72.1	14.1	3.3	28.8	9.7
		前年差	—	+14.8	+0.6	+1.0	+3.3	+0.1
		平年差	—	+4.2	-0.1	+0.6	+0.6	+0.1

- ・主茎節数は平年並み，主茎長は平年並み～やや長く，前回に引き続き徒長傾向である。
- ・いずれの品種も分枝数は平年より多い。
- ・ミヤギシロメを除き，平年並みの開花期となっている。
- ・晩播（7月4日播種）は，出芽揃い及びその後の生育は良好である。
- ・主茎節数は，13.5節～14.5節で概ね前年及び平年より並～やや多い。
- ・主茎長は，62cm～72cmで平年より長く，引き続きやや徒長傾向と思われる。
- ・分枝数は，3.1～3.7本で，前年及び平年よりやや多くなっている。

3 今後の管理

（１）病害虫防除

- ・紫斑病は，害虫との同時防除が可能で，生育ステージを確認し，適期に効率的な防除を実施する。
開花期後 20～40 日に 1～2 回薬剤を散布する。
- ・ジャガイモヒゲナガアブラムシは，8 月下旬～9 月上旬に密度がピークに達する。
発生が多い場合は，葉裏に生息しているので，剤によっては葉裏によくかかるように散布する。
- ・マメシンクイガは，連作すると発生が多くなり，発生に注意し，成虫の発生盛期は地域によって差はみられるが，概ね 8 月第 6 半旬～9 月第 1 半旬である。防除適期は成虫発生盛期からその 10 日後までである。



（２）追肥と摘心

- ・最終培土時に緩効性肥料を成分で 5 kg 程度追肥すると増収効果がある。
- ・生育調査をみるとやや徒長傾向であり，蔓化し易い品種や圃場では，8 葉期～開花期に摘心処理を検討する。

（３）その他

- ・大豆は，咲いた花の 7 割が落花・落莢するといわれ，過乾燥の圃場については，暗渠等を利用して，開花期前後に水を補給することも必要である。
- ・普及センターの情報や巡回によると外来雑草が徐々に増えて一般的になりつつある。侵入初期の除草が重要である。

